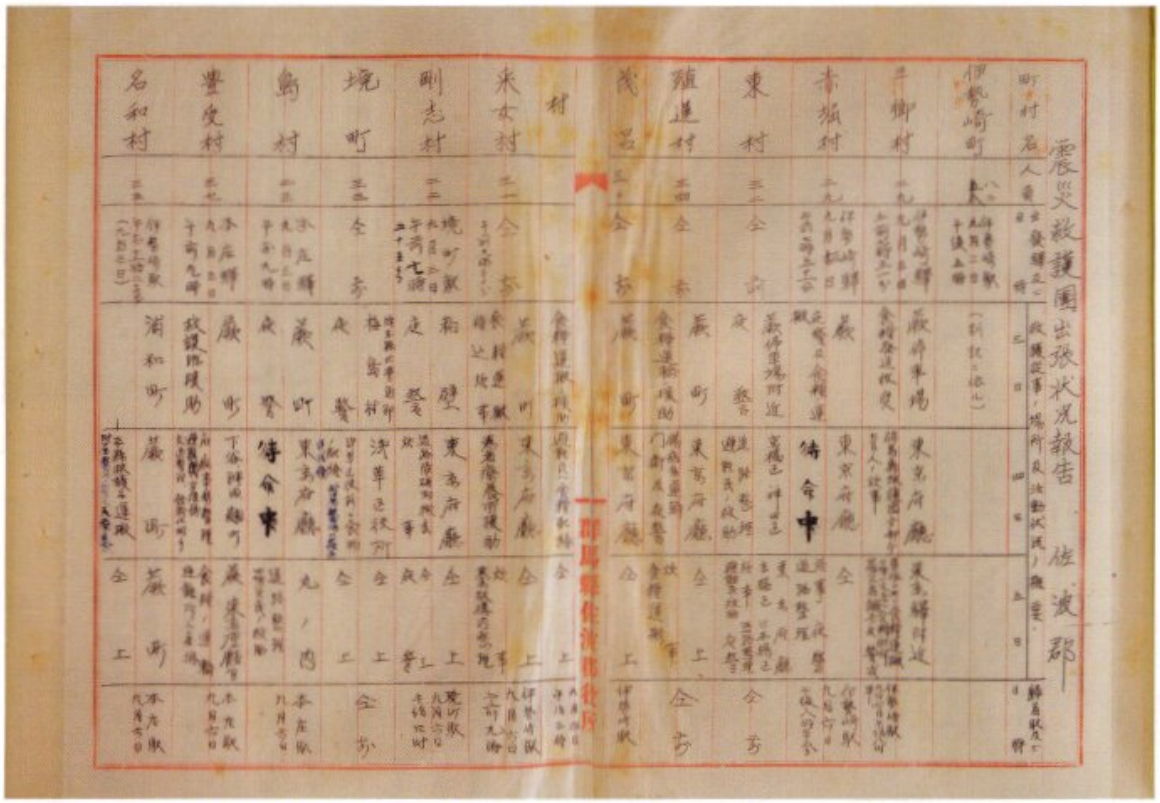
群馬県立文書館

文書館だより

TEL 027（221）2346
URL http://www.archives.pref.gunma.jp/

第43号　平成18年1月



関東大震災救護団出張状況報告（大正12年、群馬県行政文書より）　知84A386 2／2

関東地震　その時、群馬県は

ここに紹介した文書は、大正十二年（一九二三）九月一日に、相模湾を震源として発生した関東地震（関東大震災）の復興に向け、佐波郡（現伊勢崎市）の町村が罹災地へ救護に出かけた際の状況報告（部分）です。

この文書から、九月二日午後五時には伊勢崎町から八十二名の救護班が出発したことがわかります。

九月一日の正午前に大地震が発生しました。震源地から離れた群馬県では、この地震がどこで発生したか、どれくらいの被害があったのかなど、電信電話の不通により何の情報もなく、夜半に南東の空が赤くなるのを見てもただ不思議に思うだけで、これが大震災の火災によるものだとは誰も予想だにしていませんでした。日付が九月二日に変わる頃、京浜方面で大震災と大火災が発生したとの情報を受け、その直後から群馬県が罹災地復興に向け動き始めたのです。

九月二日未明、県の協議会の結果を受け、各郡市町村は救護班を編制し、続々と出発していきました。また、多くの県民が避難民の受け入れ態勢を整えていきました。

特別展・企画展「ぐんまの防災展Ⅱ」

罹災から復興へ
～先人に学ぶ ぐんまの防災～

文書館では、次のとおり、「ぐんまの防災展Ⅱ」を開催します。

特別展 平成十八年一月二十八日(土)～二月一日(水) 九時～二十二時
県庁一階県民ホール（北側）

企画展 平成十八年二月七日(火)～五月二十八日(日)
文書館展示室 九時～十七時
休館（月曜・祝日・月末）

ぐんまの防災展Ⅱとしたのは、県の消防防災課において「ぐんまの防災展Ⅰ」を開催（1／13～14）し、現在の防災対策の最先端技術を紹介、それに引き続いて文書館収蔵資料から過去の罹災・復興関係の資料を紹介する、一連の展示会として設定したためです。

このテーマには、単なる過去の災害について紹介するだけではなく、その災害に立ち向かった群馬県の先人たちのたくましさをみなさんに伝えたいという気持ちを込めました。

また、展示形態については、時系列的にすべての災害を羅列するのではなく、災害をいくつかに分類し、次のようなコーナーを設け展示します。

○群馬の災害史
過去の主な災害を年表（いつ・どこで・どんな）にまとめたものと、十年毎の災害発生件数をグラフにまとめたもので、展示会の導入コーナーとして設定しました。

○風水害と復興の歴史
主に台風による被害の実態や対策などを紹介します。

○関東大震災に立ち向かった群馬県民
関東大震災と群馬県とのかかわりについて、復興支援という観点から紹介します。

○火山災害を乗り越えて
群馬県にある代表的な活火山である浅間山と草津白根山、その二つの火山と群馬県とのかかわりについて紹介します。

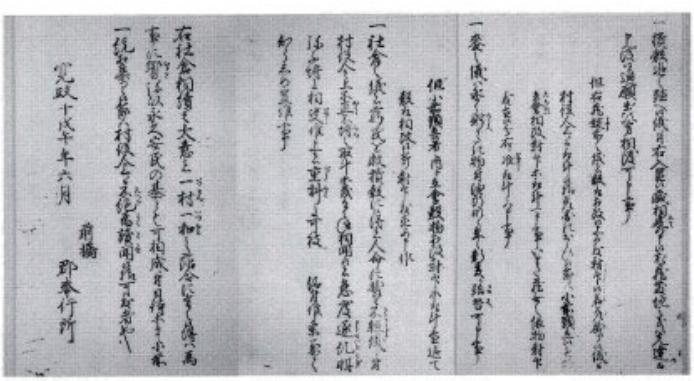
○雹・霜から作物を守る
農作物に多大な被害をもたらす雹・霜の害について紹介します。

○災害に備える
先人たちは災害から何を学んできたか、そして、現在のわれわれに何を伝えようとしているのか。この展示会のまとめのコーナーとして設定しました。

ここでは、「災害に備える」のコーナーで展示した資料を中心に紹介します。

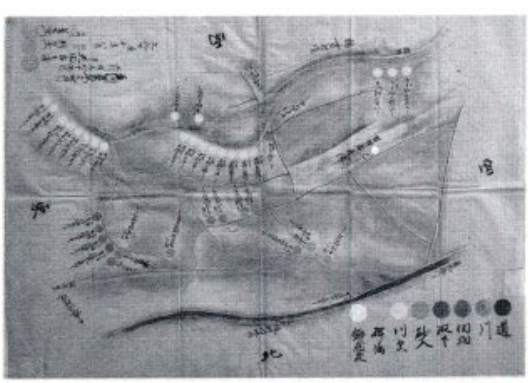
「備え」には、被害を最小限に抑えるためと、罹災からいち早い復興をするための二つの意味があると思います。先人の「備え」はどうだったのか、それは現在に引き継がれているか、等。ご覧いただきたいと思います。

◇江戸時代、前橋藩では有事に備えて食糧を備蓄する社倉制度を寛政二年（一七九〇）から実施し、各村に郷蔵（備蓄倉庫）を設けました。左は社倉制度を周知するために前橋郡奉行所が発行した冊子の一部です。麦は毎年新しく入れ替えることや、村民が集まるときに村役人が同冊子を読み聞かせることなど、制度のよりよい運用と継続をねらった内容になっています。



寛政10年（1798）6月　社倉積穀之大意（部分）　P8215 99-2

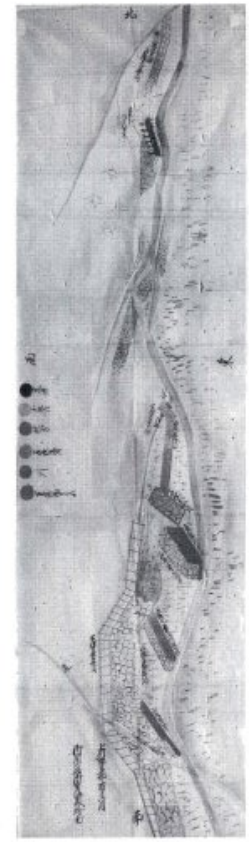
◇前橋藩支配であった下滝村（現高崎市）でも社倉制度に則り、村内に郷倉を建設して食糧を備蓄し、火災から守るなどの目的で警護体制を組んでいたことが、同村に伝存する天田家文書からわかります。左の絵図は文化七年（一八一〇）の下滝村絵図で、村の西方（中央やや右）に白丸で郷倉が記されています。



文化7年8月　群馬郡下滝村絵図　P08105 5

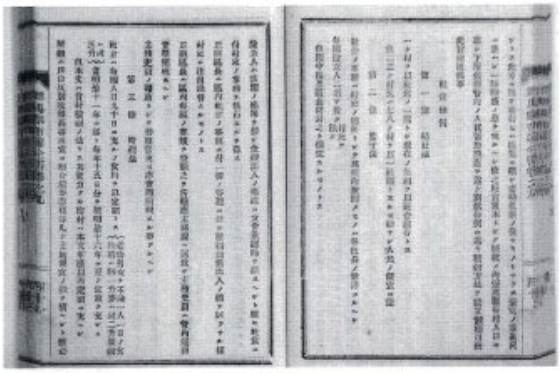
◇次ページは粕川御用水路完成図です。新たに普請した水路を粕川の氾濫から守る堤を、石積みや根籠で築いたことが一見できます。江戸時代に、水害による川の流路変化や屋敷や耕地の被害を防ぐ目的で培われた技術は、現在にも生かされています。

粕川御用水路完成図



P八五一一一〇九

◇天保年間以降大きな災害に見舞われることが減ってきたため、明治時代になり倉穀を解散する郷村が多くなってきました。しかし、備えることは重要であるとして、県は社倉条例・義倉条例を定めました。



社倉条例（明治11年9月24日）　議2588

社倉条例には、人口に応じて県税を配当するので、各町村で団及び組合を結成し、明治十一年（一八七八）から毎年十五日分ずつ、明治十六年までの六年間で九十日分を蓄えるようにとあります。（一日分を籾一升・麦二升・雑穀三升として）また、十七年からは半分の四十五日分ずつを入れ替えていくことで常に新しい状態にしておくようにとあります。

近年、自然災害が多発している状況をふまえ、われわれ現代人が先人から学ぶべき防災対策は何であるのかを、この展示会をとおして考えていきたいと思います。

先の日程で開催いたしますので、お出かけ下さい。そして、文書館に来館の際には、ぜひ実物の文書を手にとっていただき、ここで紹介できなかった古文書・公文書をご覧いただければと思います。

夏休み！子ども探険隊を実施

夏休み期間中の四日間、子どもたちに文書館の仕事を知ってもらおうと、「県立文書館こども探険隊」を開催しました。

小学5・6年生を念頭においていましたが、中学生や低学年の弟妹の参加もあり、延べ70人の子どもたちが、楽しんでくれました。

文書館の仕事の柱は、文書の収集、整理、保管、閲覧等の利用、の四つです。それぞれの仕事場や書庫を見回り、整理作業の取り組みや60万点もの資料を目の当たりにして、まさに驚きの声を上げていました。

館内探険に引き続き、各回次の体験プログラムに取り組んでもらいました。

文書の整理作業に見入る子どもたち

第1回「くずし字って！」7月28日。自分の氏名をくずし字で書き、和とじ帳をつくる。

第2回「誕生日はこんな日だった」8月4日。生まれた日の出来事を当時の新聞で調べる。

第3回「一〇〇年前の地図から学校を探せ！」8月11日。明治五年「壬申地券地引絵図」から学校の位置を探し出し、地域の変化を調べる。

第4回「和紙ってどんなものなの」8月18日。和紙でちぎり絵を作製、しおりに仕立てる。あわせてコウゾ・ミツマタの原木観察、和紙の製作工程を学ぶ。

この事業は、18年の夏も実施予定です。どうぞ、大勢の子どもたちの参加を待っています。

自分で作った和とじ帳を手に、すこしはにかむ

平成十七年度史料展示（2）

写真でたぐる昭和の記憶

―懐かしい「群馬ニュース」の映像とともに―

開催報告

この展示は、当館収蔵の写真・映像資料の中から、現在の生活の原風景ともいえる昭和三十年代を中心とした資料を選び、昭和の記憶をたぐりそして語り継ぐ中で、地域理解を深める一助としていただきたいという趣旨で開催しました。十月二十五日（火）から十二月十八日（日）まで、四十五日間で八〇三人の方にご覧いただきました。

赤城原の開拓地・糸之瀬村（昭和村）分校（29年）　議88B-1058

また、高齢者の方にとっては、自分のたどってきた道を振り返って語り合うことが脳の活性化に有効である（回想法）といわれており、展示資料を利用していただけないかと県内の高齢者福祉施設に案内を送付しました。その結果、七団体六四名の来館がありました。

「懐かしかった」「よかった」と言いながら写真や群馬ニュースに見入る方、歌を口ずさむ方、昔の思い出を熱心に話す方、いつもはうとうとしてばかりなのに群馬ニュースの映像はしっかり目を開けてみているという施設職員の方の話もありました。一方で戦争中のつらいできごとを思い出したくない方、涙される方もいて、同じ資料でも受け止め方の違いがあることを改めて感じました。

他にも施設や医療機関の職員の方から資料を使うとしたらどうしたらいいかという問い合わせがあり、高齢者向資料を充実させるという視点からも、今後、館内で検討していく予定です。

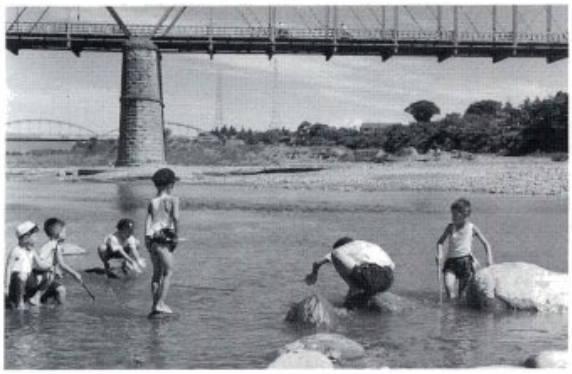
〈ノートに綴る昭和の記憶〉

展示室内にノートを置き、来館者の方から昭和の記憶を寄せていただきました。一部を紹介します。

・五〇才過ぎてから、なぜか昔がなつかしく感じられます。明るすぎない電球の下でちゃぶ台を囲んでの食事、母親の顔がいつも見えて兄弟も同じ、ほっとするようなやすらぎ。時間がゆっくりと流れていたような気がします。

・子どもの頃から何となくいろいろのものを保管していました。ふと気がついたらもう七七才。残しておいて息子たちが始末に困るようなものは自分で処理しておいて下さいと家内に言われております。でも、古いものには歴史があります。展示されているものは総て懐かしく、その年代のことが思い出されます。手元の資料も処分できずにいますが、やがて息子も親爺のものを懐かしむ時が来ると思っています。

・「利根川鉄橋下」の写真は少年時代から三十三年故郷から離れて他県へ就職するまでの長い期間、私を育ててくれた「大切な場所」でした。この利根川の西の区域には小中高校時代の友達がまだ沢山住んでいます。この写真は当時の景色を思い出させてくれるとともに多くの友を!!みんな元気だろうか。



水ぬるむ利根川での水遊び。両毛線鉄橋下（32年）　P 00407-1209

「群馬ニュース」のデジタル化すすむ

群馬ニュースは、県広報文書課が企画し、昭和32年から46年までに全80巻が制作されました。一巻10分程度の35ミリフィルムで、県下60余館の常設映画館に配給され、それぞれ一週間ずつ上映されたそうです。

これらの映像には、当時の県政や県民のくらし振りがまざまざと撮し込まれており、文字資料とは別の視点による貴重な記録となっています。

そこで、文書館では、映像資料の保存管理を良好に維持するとともに、使用上の利便性を高めるため、デジタル化してDVDに変換する作業をすすめています。

すでに59巻分が完了。「全国に誇る麦」（32年）、「保健所の一日」（33年）、「明るい生活の家計簿」（37年）、「世紀の祭典、聖火とともに」（39年）、「進む成人病対策」（40年）、「群馬用水通水」（44年）など。

文書館のエントランスホールに「映像コーナー」を設けて、いつでもご覧いただけるようにしています。

新たに収蔵された

古文書

平成十六年十月以降、当文書館へ寄贈・寄託された古文書は次のとおりです。

◎前橋市紅雲町・高橋健一氏収集文書
版本など六点。（寄贈）

◎前橋市本町・勝山敏子家文書
勝山家がコレクションした近世から明治期の版本類三五六六点。（追加寄託）

◎前橋市紅雲町・嶋田幸一氏撮影写真
交通・通信関連を中心とする県内各所の写真一六一九点。（寄贈）

◎前橋市五代町・船戸菅男家文書
旧芳賀村役場関係文書と地券など一七点。（寄託）

◎北群馬郡吉岡町・中島英子家文書
大久保村名主文書。貢租関連のほか、「右衛門日記」を含む六三三点。（寄託）

◎群馬郡群馬町・斎藤宗平氏収集文書
一九六七～九四年の『蚕糸年鑑』二五冊。（寄託）

◎前橋市野中町・井田安雄氏収集文書
新治村関係を含む七七点。（寄贈）

◎前橋市大利根町・高橋洌家文書
神川村役場文書、神川村郷土誌のほか、高橋家私的文書、計六六点。（追加寄贈）

◎吾妻郡長野原町・浅見喜義家文書
長野原町大津に伝存する名主文書の一部、二一点。（追加寄贈）

◎前橋市文京町・中村卯三郎家文書
年代不詳の前橋城絵図一鋪。（寄託）

◎ブラジル・木村彦重家文書
昭和九年にブラジル移民した彦重氏の日記を含む木村家私的資料七点。（寄託）

◎吾妻郡吾妻町・白石定良家文書
吾妻郡小泉村に伝わる名主文書の一部で襖の下張文書、一四三点。（寄託）

◎群馬郡榛名町・小幡宰太郎家文書
榛名小幡家に伝わる修験関係文書ほか小幡家私的文書五点。（寄託）

◎高崎市正観寺町・長井進氏収集文書
収集した古文書・記録類のほか、丹生村関係の近代文書、計四〇五点。（寄託）

マイクロ収集文書では次のものです。

◎碓氷郡松井田町・中島公男家文書
五料の茶屋本陣（お西）に伝わる、碓氷関所関係史料など、四八四点。

新たに閲覧できる

古文書

閲覧点検等を終え、新たに閲覧利用できる寄贈・寄託古文書は次のとおりです。

◎藤岡市・大戸文治郎家文書
江戸中期から昭和前期の約二百年にわたる、近世と近代の藤岡町関係文書・大戸家私的文書が主なものです。多野郡出身日露戦役戦没者の供養関係文書が含まれています。
一七〇五点（P八六〇一）

◎千葉県柏市・青野一枝家文書
松井田宿上町本陣を務めた松本家に伝来した、織豊期の「武田家定書」・「北条家朱印状」と江戸期の「松本家系図」です。
三点（P〇九八〇五）

◎前橋市南町・丸山知良氏収集文書
県議会図書室長・県史編さん専門委員を務めた丸山氏が収集した文書です。
一八点（P〇八四二一）

◎大阪府高槻市・千木良安代家文書
最後の安中藩医で、新島襄より洗礼を受けた千木良昌庵一族のアルバム四冊で、明治から昭和までの写真六九一枚です。
四点（P〇八七〇三）

◎利根郡昭和村・真下文男家文書
江戸時代の森下村の様子を示す検地帳の写しや人別送り証文等から明治期の教科書等を含む、昭和前期までの文書です。
三八三点（P〇八七一六）

今回閲覧可能となったマイクロ収集文書は次のものです。

◎明治期『郷土誌』（追加分）
明治四十三年に作成された郷土誌のマイクロ収集文書が平成十六年に公開されました。今回はその追加分を公開します。
一〇点　一五冊（PFP〇〇〇七）

◎三重県・朝日町歴史博物館所蔵文書
桐生市吉田允俊家文書（P九三〇一）に関連する橘守部関係の江戸中期から明治初期までの文書です。
三九点　九冊（PFP九八〇三）

◎吾妻郡中之条町・一場家文書
狩宿関所番を務めた一場家に伝えられた織豊期から明治初期までの文書です。
三九二点　八冊（うち、中之条町歴史民俗資料館収蔵分　一冊）
（PFP〇〇〇五・PFP〇三〇二）

◎群馬郡群馬町・内山幹雄家文書
江戸初期から明治中期までの修験道関係文書と西国分村関係文書です。
五九七点　七冊（PFP〇〇〇一）

◎吾妻郡嬬恋村・黒岩タキ家文書
江戸初期から明治初期までの大笹村関係文書と黒岩家の私的文書です。
一〇二七点　二〇冊（PFP〇三〇五）

◎渋川市南牧・田中博家文書
杢ヶ橋関所番を務めた田中家伝来の文書で、杢ヶ橋関所の見取り図や関所手形などが含まれます。
九一点　四冊（PFP〇〇〇三）

◎吾妻郡吾妻町・片山喜四郎家文書
狩宿関所番を務めた片山家伝来の文書で、通行関係資料や日記が含まれます。
一一〇点　二冊（PFP〇〇〇四）

◎吾妻郡草津町・光泉寺文書
草津温泉の由来、温泉の効験に関する文書です。三点　一冊（PFP〇二〇三）

新たに収蔵した

行政文書

管理受任等　平成十六年度に管理委任及び引継により県の各機関から受け入れた文書は、一、七〇七冊でした。（詳細は表1のとおり）

表1　平成16年文書館管理受任文書課室別冊数

課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数	課室名	冊数
総務課	10	医務課	86	畜産課	59	道路整備課	18
学事文書課	45	食品監視課	3	農業基盤整備課	112	道路企画管理課	256
市町村課	45	業務課	126	蚕糸園芸課	1	河川課	67
消防防災課	121	環境政策課	56	担い手支援課	46	砂防課	109
地域創造課	50	自然環境課	25	商政課	39	都市計画課	18
統計課	8	廃棄物政策課	140	工業振興課	1	都市施設課	64
新政策課	20	林政課	63	職業能力開発課	3	知事部局合計	1,707
保健福祉課	8	林業振興課	1	監理課	4	教育委員会計	0
高齢政策課	17	農業経済課	79	用地課	7	総計	1,707

収集　昨年度の文書整理において県の各機関が廃棄した文書資料中から、文書館が歴史資料と認めて収集したものは、二、三四〇冊でした。（詳細は表2のとおり。なお、議会図書室からのものは、郷土資料等）

表2　平成16年度収集文書部局別冊数

部局名	冊数
総務局	518
企画分野担当	18
保健・福祉・食品局	237
環境・森林局	211
農業局	429
産業経済局	86
県土整備局	373
地労委事務局	6
議会図書室	176
教委事務局	286
合計	2,340

公文書等保存専門講座を開催

平成17年9月28日（水）、群馬県市町村公文書等保存活用連絡協議会との共催による、「公文書等保存専門講座」を文書館研修室で開催しました。

当日は県及び20市町村から41名の参加がありました。

○講演

「地域情報の拠点をめざして－寒川町文書館の計画－」

講師　寒川町企画課　高木秀彰氏

○報告

「群馬町の文書管理について」

報告者　群馬町総務課　富所宜一郎氏

○質疑応答・情報交換会

◆高木氏講演の概要

寒川町では平成18年の秋、「文書館」を立ち上げることになった。

町では、昭和61年から歴史資源発掘の一環として町史編さんが始まり、そこで収集された資料について、保存・活用する動きがでてきた。

平成14年「さむかわ2020プラン」がスタートし、その中で、収集資料の有効活用の方法として、図書館、文書館建設の構想を盛り込むことができた。

建築は神奈川県企業庁の「公営企業資金等運営事業」を活用し、県に設計、建築を依頼した。

文書館の基本理念は、①寒川の記録資料を後世に伝える文書館②すべての人々が利用できる開かれた文書館③郷土愛と未来の創造に役立つ文書館④行政の説明責任を果たす文書館⑤みんなが足を運べる文書館、である。

今年度（H17）は来年3月に向けて、条例、規則など20近くの例規類を作成する予定である。組織の位置付けは、まだ未確定である。公文書の評価、選別の権限を持つので町長部局に入るのが望ましいと思うが、どの部署に入るかは未定である。

来年度（H18）は、コンピューターシステムがきちんと稼働するかどうかのテスト、備品の購入、事務所の引っ越し、町民へのPR、開館記念行事等開館へ向けての準備が必要である。開館の曜日や時間は図書館と一体であること、広く町民に利用して貰うことを考慮し、全て同じにしたい。

「町民の皆さんに寒川町のことを知ってもらう、そのための情報提供をしたい」これが基本の考えである。

Q&A レファレンスコーナー

Q　先日、「筆子中」と刻まれたお墓を見ましたが、これは何でしょうか？

A　「筆子中（ふでこちゅう）」と刻まれたお墓は、江戸時代の寺子屋（手習所・手習塾ともいう）師匠のお墓だと思われます。

下の写真は勢多郡富士見村の原之郷にある小見勇造さんのお墓ですが、この墓石にも「筆子中」と刻まれています。小見勇造さんは、文久年間（一八六一～一八六三）頃に寺子屋の師匠をしていました。

七、八歳で寺子屋に入学した子どもたちは「往来物」を教科書に「読み書き」、つまり手習いを中心に学びました。そのために子どものことを筆子（手習子・寺子とも）と呼んだのです。

この子どもたちが寺子屋を卒業して、師匠の死後、その徳をしのんで、お墓や顕彰碑をつくることがありました。こうした石造物を筆子塚（筆塚とも）といいます。

筆子塚の台石には、建立の主体者となった筆子たちが「筆子中」とか「門人中」などと刻むことが多かったようです。

寺子屋では師匠と筆子の関係は非常に固い絆で結ばれ、寺子屋を卒業した後も長いつき合いが続きました。

『上毛かるた』に「老農船津伝次平」として登場する船津伝次平さんは、農業指導者だけでなく寺子屋「九十九庵（つくもあん）」の師匠としても広く知られています。

しかし、船津伝次平さんのお墓には「筆子中」の文字は見あたりません。その代わりに「贈位記念碑」の建立者の中に筆子たちの名前が刻まれています。

このように筆子の師を思う気持ちは筆子塚以外でも垣間見ることができます。

国立歴史民俗博物館が行った調査によれば、現在のところ県内では六一三基の筆子塚が確認されています。その多くに「筆子中」の文字が刻まれていました。

皆さんも機会がありましたら、近くのお墓を眺めてみてください。新発見の筆子塚に出会うかもしれません。

富士見村原之郷・小見勇造の筆子塚

市町村史誌編さん室紹介

みなかみ町　新治村誌編纂室

本村は明治四十一年五月一日、赤谷川の両岸の湯ノ原村、久賀村の合併で誕生し、平成二十年に一〇〇周年を迎えます。これを期に村誌編纂の気運が高まり、平成十一年一月準備委員が発足、検討を進めてきました。

本村の修史事業は昭和三十一年に新治村史料集第一集を手始めに、平成六年の第九集まで刊行しています。史料集から通史へ、この発想は県下にさきがけた試みです。この先人の思いが四十数年を経た今、実現に向けてようやく動き出しました。

平成十二年から三名の調査員を核に有志の協力で村内古文書所在確認作業、寺社等建造物調査を進めています。平成十六年八月、刊行委員会、編纂委員会を立ち上げ、県内研究者、村内有志により本格的活動に入りました。編纂委員は自然（九名）、原始・古代（六名）、中世（二名）、近世（五名）、近現代（十五名）、民俗（七名）で専門部会を編成し、精力的に調査、研究を進めています。

編集方針は、①通史編、資料編各一巻、②新治の大地に生き、連綿と続く人々のくらし、民俗、伝統、文化の記録、③時代と共に移り変わる生活の実態、④地理的特性を踏まえ現行政区にこだわらず吾妻郡、三国峠をはさむ新潟県との関わり、⑤学問的裏付けを持ちながらも平易な文章表現に心がけることとします。

編集計画は平成十五年度基本計画の策定、調査研究、平成十六、十七年度分担内容の決定、執筆内容の調整、平成十八年度一次原稿の完成と修正、平成十九年度印刷原稿完成、印刷製本、平成二十年度刊行の予定です。

月夜野、水上、新治の三町村が合併、平成十七年十月一日「みなかみ町」が誕生しました。新治村は九十七年で閉村となりましたが、当初の計画通り仕事を進めていくことになりました。

（新治村編纂室　見城　孝司）

告知板

◎『群馬県行政文書件名目録』第16集（大正期学務編Ⅵ）の発行

本目録は『群馬県行政文書簿冊目録第2集』（大正期行政文書編）での「学務」に類別した四一二冊のうち、「任免・賞罰」に属する文書で、『群馬県行政文書件名目録』に未掲載の一四〇五件を収録した閲覧用の文書件名目録です。

◎『群馬県立文書館収蔵文書目録』23の発行

本目録は『群馬県立文書館収蔵文書目録』の第23集（多野・藤岡地区諸家文書2）として、藤岡市の小此木千代子家文書（藤岡市下日野）、藤岡市の大戸文治郎家文書（藤岡市藤岡）、鬼石町の黒崎太朗家文書（多野郡鬼石町浄法寺）にそれぞれ伝来した文書を収録しています。

◎ホームページ

当館ホームページで収蔵資料の目録検索をすると、画面上から文書閲覧票を作成できるようになりました。手書きで記入する手間が省略でき便利です。

また、史料展示等、展示資料（一部を除く）を紹介するページを設けました。さらに、学校を主な対象に展示パネルの貸し出しも開始しました。ぜひ、ご利用下さい。

あゆみ

【平成16年度】

11・10　特別展「上州の名所を旅する」開催（県庁県民ホール）～16日

11・19　群文協主催「公文書等保存施設視察研修会」開催（埼玉）

11・20　古文書解読公開講座開催（27日）

12・1　『普及版 授業で使える ぐんまの資料』刊行

1・15　文書館寺子屋講座開催（新田町）

1・22　文書館寺子屋講座開催（甘楽町）

2・4　史料展示（2）「授業で使えるぐんまの資料展」開催～5・29

2・7　群文協主催・文書館後援「古文書等保存活用研修会」開催

2・15　文書館運営協議会開催

3・25　『群馬県行政文書件名目録』第16集（大正期学務編Ⅵ）刊行

3・31　『群馬県立文書館収蔵文書目録』第23集（多野・藤岡地区諸家文書（2））刊行

3・31　文書館紀要『双文』第22号刊行

【平成17年度】

5・19　文書調査員会議開催

5・26　群文協総会・講演会

5・28　古文書入門講座（～6・25、全5回）

6・17　行政文書の受任・引継収集（県庁）～6・28

6・25　古文書講座修了者、三千人突破

7・2　史料展示（1）「一〇〇年前のふるさと―明治四五年『郷土誌』展―」開催～9・25

7・27　文書館運営協議会開催

7・28　「県立文書館子ども探険隊」（～8・18、全4回）を開催

7・30　長期古文書講座（～11・26、全14回）の開催

9・28　公文書等保存専門講座の開催

10・25　史料展示（2）「写真でたぐる昭和の記憶―懐かしい『群馬ニュース』の映像とともに―」～12・18

10・30　「あの時群馬ニュース館」を開催、昭和30年代のニュース上映。

10・31　『ぐんま史料研究』第23号刊行

11・19　公開講座「群馬県庁文書を読む」加藤聖文（国文学研究資料館アーカイブズ研究系助手）

11・26　公開講座「江戸の市民生活」原島陽一（文化女子大学名誉教授）

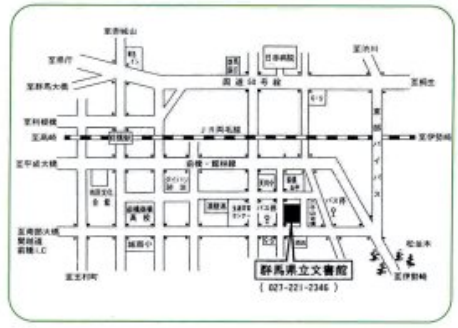
1・14　文書館寺子屋講座（渋川市）

「古文書講座」修了者が三千人を突破！

文書館では、昭和58年度から、毎年、古文書講座（入門・長期）を開催、県民の皆様に、県内に残されてきた古文書や群馬県の公文書を解読しながら、群馬県の歴史を学ぶ機会を提供してきました。開講以来23年間、毎年申し込みが定員を超える人気講座です。そして、一定回数以上の出席者には修了証書を授与してきたところ、今年度の古文書入門講座で、修了者は、三千人を突破しました。

おめでとうございます。
3000人目の修了者。

案内図



発　行／群馬県立文書館
〒371-0801　前橋市文京町三-三-二六
印　刷／松本印刷工業株式会社
題　字／岡庭征人書
本紙の製作費は一部あたり21円です